

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	歴史民俗資料館	No.	1
事業名	文化財保護事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	(1)	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	郷土に残る文化財の保護に努め、積極的に活用することにより、次世代に継承していくとともに、学校教育・生涯学習に寄与する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定文化財の保存と啓発 ・ 新規に指定可能な文化財の調査 ・ 町の歴史に係る調査・研究 ・ 埋蔵文化財の保護と開発に係る調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸能の継承と普及 ・ ・ ・ 		
現在における 経過又は課題	<p>町内に残る指定文化財はもちろんのこと、指定していなくても近年急速に失われつつある郷土の歴史を考える上で貴重な文化遺産について日々調査し、町民に認知してもらいようにするため、その保存・活用方法を検討しなければならない。</p> <p>各地区に残る伝統芸能について、現状では継続するのに苦慮している地区もある。伝統芸能を発表する場の提供とともに、次世代へ継承するための方法を考えなければならない。</p>		
平成 28 年度 の目標又は 改善策	<p>指定文化財とともに、町内に残る貴重な文化遺産等について、専門家や地域住民の協力を得ながら調査を進め、新たな知見を得られれば、その成果を町民に還元するため、学習機会の提供等、普及啓発活動を推進する。特に、島根県松江市と姉妹都市を結ぶ縁となった堀尾吉晴公について、生誕地である町南部のみならず、町全体に浸透するように普及啓発を進めていく。</p> <p>毎年 10 月に開催している伝統芸発表会及び大口北小学校で実施している伝統芸能保存会の方々と児童の交流会を引き続き開催し、発表の場を設けるとともに、各地区における伝統芸能の活動状況を窺いながら、次世代へ継承していく方法を実施する。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
6	文化遺産の調査及び普及啓発活動
6 ～ 8	生涯学習講座で堀尾吉晴公に関する講座（計3回）。8月には受講者とともに松江市へ行き、松江城等を視察。受講者には堀尾吉晴公を中心に、町内の歴史についてガイドができる団体を設立していただき、より活発な普及啓発活動を進める。
8	文化財に関するイベント・講演会の検討。12月頃までに実施。 調査については、専門家や地域住民の協力を得ながら、通年で実施。さらにさらに文化財に関する認知度を高めるため、普及啓発活動を行う。また、町内の歴史について、町内外の各種団体より講演依頼がある場合は、積極的に受けて実施する。
	伝統芸能の保存・継承
6	伝統芸能保存会会議内において、各地区の現状等を聞き取り、今後の継承活動に向けて検討。
10	伝統芸能発表会の開催
2	大口北小学校との交流会。他の小中学校へも本活動を提案する。

□3年間の目標

目標	・ ・						
	項目（単位）	H26 計画	H26 実績	H27 計画	H28 目標	H29 目標	H30 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H29 年度	・ ・
H30 年度	・ ・

■事業コスト

		単位	H26 年度決算額	H27 年度当初予算額	H28 年度計画額
事業費		千円	3,032	2,770	3,058
(内特定財源)		千円	30	30	30
人工	職員	人工	0.5	0.5	0.5
	臨時職員	人工	1	1	1
	計	人工	1.5	1.5	1.5

■平成 28 年度計画特定財源内訳

(単位:千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
その他	30	町史、遺跡報告書売払い
合計	30	

■平成 28 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位:千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
文化財看板設置工事費	299	299	桂林寺境内に所在する堀尾吉晴及び金助とその母の供養塔について案内(経路)看板及び説明看板を設置。

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

文化財の指定・未指定に関わらず、町内に残る貴重な文化遺産の啓発活動について、昨年度に引き続き、南保育園との連携事業「郷土を愛する心を育む活動」、中地域自治組織における文化部会「歴史と民俗研究会」のアドバイザーをはじめ、老人クラブ等、町内外問わず各団体より依頼を受け、地域に遺る文化遺産の講演及び現地解説等を実施した。生涯学習講座では、姉妹都市提携を結んだ松江市とのご縁である本町出身の武将、堀尾吉晴公についての内容で計2回開催。さらに、受講者の中で有志を募り、ボランティアガイド研修として松江市へ赴き、松江城をはじめとした堀尾氏ゆかりの地を視察。その後、勉強会等を積み重ね、「おおぐち歴史ガイド」として堀尾跡公園周辺のガイドができるようになった。

春の金助桜まつり及び秋の伝統芸能発表会は、ともに晴天に恵まれて開催することができた。春の金助桜まつりでは、姉妹都市提携記念として松江市より市長をはじめ、多くの市民がいらっしゃる前で披露できたことは各地区の保存会にとって大変意義深いことであった。秋の伝統芸能発表会では、昨年引き続き、町外の伝統芸能団体（江南市・安良棒の手保存会）にゲスト出演していただいた。また、2月に開催した大口北小学校との連携事業「ふるさと大口・お祭りたいけんひろば」を今年度も実施。児童と各地区の保存会の熱気溢れる交流が印象的であった。

■ 評価

町内に残る貴重な文化遺産の啓発活動は、昨年に引き続き町内外問わず様々な団体から依頼があり、講座・現地解説等実施することができた。その中でも、生涯学習課と連携し、堀尾跡公園周辺をガイドする任意団体が活動できるようになったことは大きな成果である。資料館だけでは全てをカバーすることは不可能なので、次年度以降、様々な主体とともに近年失われつつある地元の文化遺産や過去の情報（記憶）を後世に伝えていく活動を、より積極的に推進していきたい。

春の金助桜まつり及び秋の伝統芸能発表会を無事開催し、各地区の保存会が日頃の成果を発表する場を設けることができた。しかし、大口町伝統芸能保存会会議等において、保存会の維持等、苦慮しているという話をよく耳にする。大口北小学校の交流とともに、保存会のモチベーション向上と活気をもたらす機会を創出し、伝統芸能が後世に継承されるように努めていきたい。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	歴史民俗資料館	No.	2
事業名	歴史民俗資料館運営事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	(1)	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	先人の培ってきた過去の営みを現在に伝え、郷土「おおぐち」に関する事柄や美術分野の展示により、町民の知的欲求に応える。また、小中学校の授業やグループ学習、休日の学びの場として、家庭・子どもの教育活動に貢献する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年4回の企画展開催 ・ 常設展示室の管理 ・ 展示解説及びそれに係る調査研究 ・ 文化財収蔵庫の管理 <ul style="list-style-type: none"> ・ 収蔵品の電算登録と管理 ・ 学校授業等での見学受け入れと出前事業 ・ 博物館実習生の受け入れ（一週間） ・ 年報、展示図録等の発行 		
現在における 経過又は課題	<p>年4回開催している企画展のうち、春の企画展「端午の節句」及び冬の企画展「ひなまつり」は定例化し、大変好評である。上記2本の企画展を中心に、町民への認知度をさらに深め、積極的に資料館を利用してもらう必要がある。</p> <p>文化財収蔵庫は現在、団体依頼を受け付け、適宜開放できる状態にある。収蔵品も含め、全体的な施設活用を模索しなければならない。また、小中学校、高齢者施設及び町内各種団体に対し、収蔵品の活用を積極的に推進していかなければならない。</p>		
平成28年度の 目標又は 改善策	<p>定例化した2本の企画展は、アンケートや直接いただいたご意見等を参考に運営を改善し、来館者を増やしつつ円滑に利用してもらえるように努める。また、その他2本の企画展は、姉妹都市提携を結んだ島根県松江市のご協力を得ながら、堀尾吉晴公の築いた松江城天守及び松江市の魅力等、町民に紹介できるような展示を進める。</p> <p>文化財収蔵庫及び収蔵品の活用は、年1回の施設開放、月に1回開催する高齢者施設への資料出張貸出を引き続き実施しながら、教育・福祉と連携した活用を推進する。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	春の企画展開催（6月上旬まで）
6	中学生職場体験
7	夏の企画展開催（9月中旬まで）
8	博物館実習生の受け入れ、小中学生の夏休み向けイベントの開催
10	秋の企画展開催（12月中旬まで）
11	ふれあいまつりでの文化財収蔵庫一日解放
1	冬の企画展開催（3月中旬まで）、小学校3年生の授業「むかしの道具」で資料館利用
<p>毎月 社会福祉協議会が開催する「オレンジカフェ・大口」に資料出張貸出 小中学校、高齢者施設及び町内各種団体に対し文化財収蔵庫の団体利用があれば適宜開放。 また、収蔵品の利用、出前授業等の依頼があれば実施。</p>	

□3年間の目標

目標	・ ・					
項目（単位）	H26 計画	H26 実績	H27 計画	H28 目標	H29 目標	H30 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H29 年度	・ ・
H30 年度	・ ・

■事業コスト

		単位	H26 年度決算額	H27 年度当初予算額	H28 年度計画額
事業費		千円	14,014	10,571	14,948
(内特定財源)		千円	40	40	40
人工	職員	人工	0.5	0.5	0.5
	臨時職員	人工	1	1	1
	計	人工	1.5	1.5	1.5

■平成 28 年度計画特定財源内訳

(単位:千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
その他	40	図録等売払い、広告収入
合計	40	

■平成 28 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位:千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
常設展示改修委託料	3,500	3,500	松江市と姉妹都市提携を結んだご縁である堀尾吉晴公を紹介する展示スペースを拡張するため。

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

年4回開催する企画展のうち、春の企画展「端午の節句」及び冬の企画展「ひなまつり」は今年度も継続して開催した。夏及び秋の企画展は、昨年度姉妹都市提携を結んだ島根県松江市をテーマに開催。夏は現在の松江市を知っていただくため、名産や観光名所等のパネル展示を行い、会期中にはNPO法人まちねっと大口と連携し、松江物産展を開催。予想以上の来客で大好評であった。秋は姉妹都市提携を結んだご縁でもある、本町出身の武将で「松江開府の祖」堀尾吉晴公が松江の地に遺した業績を紹介。資料を松江歴史館等より借用し、こちらでも大変好評を得た。そして、秋の企画展で作成したパネル及び複製史料を元に、資料館ロビーに新しく展示ケースを設置。資料館に来ていただいた方に郷土の偉人について紹介できるコーナーを増設した。

文化財収蔵庫内における所蔵資料の活用については、今年度も引き続き、大口町社会福祉協議会が主催する「オレンジカフェ・大口」に毎月資料を貸出し、参加者に対し回想法の手法を取り入れたレクリエーションを実施した。「ふれあいまつり」開催中は、文化財収蔵庫を一日開放することにより、収蔵庫内における資料を見学する機会を創出。小学校3年生の授業「むかしの道具」においては、資料館及び収蔵庫の見学、資料の体験等に利用していただいた。

■ 評価

春の企画展「端午の節句」及び冬の企画展「ひなまつり」は、例年どおり大変多くの来館者で賑わった。毎年かなりの来館者で賑わう冬の企画展は今回10年目を迎えたが、現状の対応では間に合わない状況となりつつある。このため、両企画展をさらに改善するため、新しい体制づくりが必要となってくるであろう。年間来館者数は15,635人と、過去最高だった昨年度をさらに更新した。平成23年度以降、毎年来館者数は増加し続けており、この水準を維持・発展できるように資料館の認知度及び利用度を上げていく。

文化財収蔵庫及び収蔵品の活用について、今年度も継続して実施した「オレンジカフェ・大口」での取り組みは、収蔵品をただ保存するのみではなく、様々な分野の資料を多岐にわたり活用することができた。次年度以降は、実際にどれほど効果があるのか、アンケート等を行いながらデータを収集し、より発展した取り組みにしていきたい。